

令和 2 年度使用小学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 図画工作

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	図画工作
----	------

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
開隆堂	9	図工 101 102 301 302 501 502	ずがこうさく 1・2 上 わくわくするね ずがこうさく 1・2 下 みつけたよ 図画工作 3・4 上 できたらいいな 図画工作 3・4 下 力を合わせて 図画工作 5・6 上 心をひらいて 図画工作 5・6 下 つながる思い	・学習で身に付けさせたい資質や能力が「～しよう」などと、めあてが朱書きで強調されており、児童が確認しやすい。 ・考えたり、選んだり、伝え合ったりする場面を写真と児童の声の吹き出しで表現し、発想・構想の仕方を示している。また、キャラクターを設け、発想・構想のヒントを投げかけている。 ・学習内容が系統的に配列され、見通しを持って指導できる工夫がみられる。低学年は「絵」、中学年は「工作」の題材数が多い。 ・「ひらめきコーナー」では、紙を丸める、揉むなど短時間に一人でできる工作が紹介されており、児童の造形意欲を高める工夫がある。 ・「造形の引き出し」では、道具や用具の使い方がきめ細かに示されている。特に、紙・木版画の制作は、写真とコメントで手順が示され、学習を進めやすくする配慮が見られる。また、題名のつけ方、鑑賞の方法などもあり、造形的なものの見方や考え方を深める補助となる。 ・タイトル字がゴシック体、本文に丸ゴシック体や明朝体などを使用し、見やすくしている。各ページの写真やコメントに沿って学習を進め、作品の完成につながるように手順が示されている。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
日 文	1 1 6	図工 103 104 303 304 503 504	ずがこうさく 1・2 上 たのしいな おもしろいな ずがこうさく 1・2 下 たのしいな おもしろいな 図画工作 3・4 上 ためしたよ 見つけたよ 図画工作 3・4 下 ためしたよ 見つけたよ 図画工作 5・6 上 見つめて 広げて 図画工作 5・6 下 見つめて 広げて	・振り返りが題材末尾に「安全」「片付け」「感じてほしいこと」の視点で示されている。「～しよう」「～おこう」「～なるね」など学びに向かう力を高める表現となっている。 ・複数で制作している児童、話し合いをしている児童の写真を取り入れ、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるようにしている。 ・「ひらめきポケット」では、試しながら形や色をとらえてイメージを広げられるように、身近なものや作品などの写真が示されている。児童の発想のヒントになり創造性をはぐくむ工夫がされている。 ・「教科書美術館」は、児童のわくわく感を高める図版となっており、感じたことを話したくなるような魅力を感じる。 ・題材ごとに制作の参考となる児童や作品がつぶやく吹き出しを効果的に使い、児童が造形的なものの見方や考え方を働かせながら学習できるように工夫している。 ・「使ってみよう材料と用具」は、使い方が丁寧にまとめられている。特に、金づち、電動糸のこぎりの使用は、安全で適切な扱いができるよう配慮されている。 ・中学年の絵の具の色のまぜ方では、児童に分かりやすいように、写真やコメントで具体的に示されている。 ・学習内容が系統的に配列されている。全学年とも造形遊びをする活動が多く取り扱われている。6 学年を通して同じ材料や用具に繰り返しかわり、発達段階に合わせて学びを深められるよう工夫されている。

教科用図書調査に関する報告書

図画工作		観点別評価		「◎」優れている		「○」標準的		「△」やや劣る	
選定の観点		選定の視点		開隆堂		日 文			
学習指導要領との関連	1	学習指導要領に示されている図画工作科の目標達成に結び付く内容になっているか。		◎		◎			
	2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。		○		◎			
	3	「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。		◎		○			
	4	言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。		○		○			
内容	1	感性や想像力を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことができる工夫がなされているか。		◎		◎			
	2	表現及び鑑賞の活動を通して、「共通事項」を身に付けることができるよう、配慮がなされているか。		◎		◎			
	3	互いのよさや個性などを認め尊重しあう活動となるような工夫がなされているか。		○		◎			
	4	創造することの価値に気づき、自分たちの作品や美術作品などに表れている創造性を大切にすることで態度を養うことができる工夫がなされているか。		○		◎			
	5	個々に特性を生かした活動ができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせる配慮がなされているか。		○		◎			
構成・分量	6	必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすることができる工夫がなされているか。		○		○			
	7	事故防止のために、使用する材料や用具、活動場所における安全や衛生面などに配慮した内容となっているか。		○		◎			
	1	内容の量と学習時間が適切に配当されているか。		○		○			
表記・表現	2	児童の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。		○		◎			
	1	表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。		◎		◎			
	2	文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。		○		○			
ユニバーサルデザイン	3	ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。		○		○			